

油症の 診断と 治療

■診断基準

油症の診断基準としては、1972年（昭和47年）10月26日に改定された基準がありますが、その後の時間経過とともに症状および所見の変化がみられるため、2回の追加を経て、1981年（昭和56年）より以下のような診断基準が用いられていました。その後2004年（平成16年）9月29日に血液2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran (Pe CDF) 値が診断基準に追補されました。

油症の診断は発病条件と症状、所見を参考に受診者の年齢および時間的経過を考慮のうえ、総合的に判断されます。

油症診断基準

発病条件

PCBの混入したカネミ米ぬか油を摂取していること。

(ただし、油症母親を介して児にPCBが移行する場合があります、多くの場合で家族発病がみられる。)

重要な所見

- 1 ざ瘡様皮疹**
顔面、臀部、そのほか間擦部などにみられる黒色面皰(めんぼう)、面皰に炎症所見の加わったもの、および粥状内容物をもつ皮下嚢胞とそれらの化膿傾向。
- 2 色素沈着**
顔面、眼瞼結膜、歯肉、指趾爪などの色素沈着(いわゆるブラックベイビーを含む)
- 3 マイボーム腺分泌過多**
- 4 血液PCBの性状および濃度の異常**
- 5 血液PCQの性状および濃度の異常**
参考となる血中PCQ値
1) 0.1ppb以上 : 異常に高い濃度
2) 0.03~0.09ppb : 1)と3)の境界領域濃度
3) 0.02ppb(検出限界)以下 : 通常みられる濃度
- 6 血液2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran (Pe CDF) の濃度の異常**
1) 50pg/g lipids以上 : 高い濃度
2) 30pg/g lipids以上、50pg/g lipids未満 : やや高い濃度
3) 30pg/g lipids未満 : 通常みられる濃度

参考となる症状と所見

1. 自覚症状

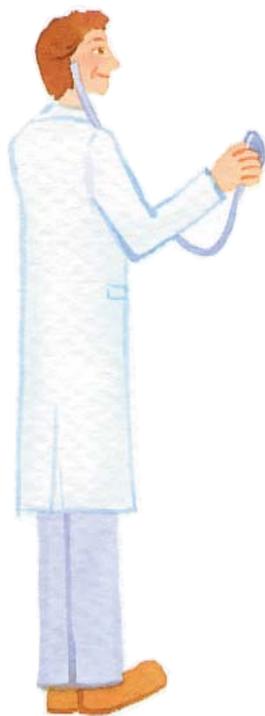
- 1) 全身倦怠感
- 2) 頭重ないし頭痛
- 3) 四肢のパレステジア(異常感覚)
- 4) 眼脂過多
- 5) せき、たん
- 6) 不定の腹痛
- 7) 月経の変化

2. 他覚的所見

- 1) 気管支炎所見
- 2) 爪の変形
- 3) 粘液囊炎
- 4) 血清中性脂肪の増加
- 5) 血清γ-GTPの増加
- 6) 血清ビリルビンの減少
- 7) 新生児のSFD(過小体重児)(Small-For-Dates Baby)
- 8) 小児では、成長抑制および歯牙異常(永久歯の萌出遅延)

※診断基準は油症か否かについての判断の基準を示したもので、必ずしも油症の重症度とは関係ありません。
※血液PCBの性状と濃度の異常および血液2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran (Pe CDF) の濃度の異常については、地域差・職業などを考慮する必要があります。

(昭和51年6月14日補遺、昭和56年6月16日の油症治療研究会議より⑤を追加)
(平成16年9月29日に⑥を追加)



治療 ～PCBの化学的特性により体内のPCB排泄促進は困難～

現在、油症患者さんの体内のPCBやダイオキシン類濃度は健康な人と同じ程度まで低下している方が多いのですが、まだ高い濃度を示す方もいます。治療法としては、原因物質であるPCBおよびダイオキシン類の排泄を促進するのが最も効果的ですので、臨床試験も行いました。しかし、残念ながら現在のところ確実に有効な排泄促進剤はまだ見出されていません。

一方、臨床試験によって漢方薬である桂枝茯苓丸は、油症の全身倦怠感、皮膚症状、神経症状、呼吸器症状に効果があること、また麦門冬湯は呼吸器症状に効果があることがわかっています。



従って、治療は各症状に対する対症療法を中心に行われます

神経症状

しびれ感、感覚低下などの末梢神経症状



ビタミン複合剤・
ビタミンB12の内服

痛み（頭痛を含む）



鎮痛剤・頭痛薬の内服、
湿布療法など

皮膚症状

黒ニキビ、赤い炎症ニキビ、
皮膚のふくろの化膿



抗菌薬の内服、切開切除

顔面に残ったニキビの瘢痕



皮膚科・形成外科的な
手術を行うこともあります

色素沈着



ビタミンC・
グルタチオン剤
などの内服

皮膚の乾燥・
かゆみ等



抗ヒスタミン剤の内服、
保湿薬・ステロイド軟膏の外用

足底のたこ・うおのめ



スピール膏貼付、削除

その他、眼科、歯科、
整形外科などでも
症状に応じた対症療法が
行われます

呼吸器症状

咳・たん

〈気道感染のない場合〉



治療を必要としない
麦門冬湯も効果有り

〈気道感染を合併している場合〉



たん検査の後に
適切な化学療法を行う
麦門冬湯も効果有り

（全国油症治療研究班で行った臨床試験によって、麦門冬湯という漢方薬が咳・たんの症状に有効であることがわかりました。）

桂枝茯苓丸 の内服

全身倦怠感、
皮膚症状、
神経症状、
呼吸器症状に
効果あり

